

舞姫

森鷗外

<テーマ>

相沢がエリスに隠したる顛末を告げたとき
エリスはなぜ発狂したのか。

<はじめに>

●テーマ設定の理由

クラスでノートを回覧した時に「相沢は豊太郎がドイツを離れることをどんなふうのエリスに伝えたのだろう」という疑問を持った子がいて私も知りたいと思ったのがきっかけである。おとなしい気象を持つエリスが、髪をむしり、布団をかみ、物を投げるような発狂を起こしたのは様々な要因があったのではないかと考える。いろいろな視点から要因を考えていきたい。

●テーマについての概論

本編においては、相沢の言い方、子どもの存在の二点を中心に考える。
次に結論でまとめを書き自分の考察、踏まえて考える。

●結論

エリスが発狂した要因は、豊太郎に対する深い愛情によるものである。

< 本編 >

●相沢の言い方

相沢は自分の利益にならないことはしない人物だった。しかし、友人のことは大切にされていて、「君のような学力、能力ある者が何時まで一人の少女のために目的のない日々を過ごすのか」と心配していた。このことから、相沢はエリスのことを豊太郎にとって邪魔な存在としてみていたと考える。故に、相沢はエリスに豊太郎がドイツを離れることを告げる際、エリスに対しきついことを言ったのではないかと考える。エリスは「豊太郎に欺かれた」と言い発狂した。私は、初めは豊太郎が事の顛末を隠していた事実に対しエリスは欺かれたと考えていたが、実はエリスに対する愛情を欺かれていたのではないかと考える。その理由は、エリスは豊太郎に「自分のことを置いていかないでほしい」とよく言っていた。それは、豊太郎の愛情が自分にあるのかを不安に思っていたと考えたからだ。愛情を不安に思っていたからエリスは愛情を欺かれたと思ったのではないかと私は考えた。

したがって、相沢はエリスに「あなたの存在が豊太郎の有望な未来を邪魔している。豊太郎にとってあなたは邪魔な存在でしかない。」というようなことを言われ、エリスは豊太郎が自分のことを愛していなかったと解釈したのではないかと考える。

豊太郎を愛していた気持ちがそのまま悲しみになり、エリスは発狂した。エリスの発狂ぶりが凄かったことから愛情の深さを感じた。よって、エリスの発狂は豊太郎に対する深い愛情であると考えられる。

●子どもの存在

エリスが発狂したとき、エリスは「机のうえにあったキョウホウ（漢字が出ませんでした）を与えると顔に押し当て泣いた」と言う。ここからもエリスが豊太郎のことを愛していたと考えた。母が与えた物や食べ物は全て投げ返していたエリスがキョウホウだけは投げずにキョウホウを掴みながら涙を流した。キョウホウとは赤ちゃんを包むための布である。このことから、子どもの存在が関係していることは確かである。何より子どもがいるのだからエリスに豊太郎への愛情があったと私は考えた。愛していた豊太郎との間に授かった子どもと自分が捨てられたこともエリスが発狂した要因である。

＜結論＞

以上よりエリスが発狂したのは豊太郎のことを愛していたからである。

愛していた豊太郎に欺かれたことは踊り子としてつらい過去を持つエリスにとってとても悲しかったと思う。エリスは、豊太郎と初めて出会ったとき、「あなたは私に嘘はつかないだろう。ひどいことはしないだろう。」といていた。その時からエリスは、豊太郎は自分に嘘はつかないと信じていたと考える。だからこそ欺かれたことが本当に悲しかっただろうし、愛していたからあのおとなしいエリスが凄惨な発狂の仕方をしたと考える。

また、私と同じクラスでエリスは金銭的な事情から豊太郎と付き合ったという人がいた。しかし、それでは私の考えが成り立たなくなってしまうし子どもの存在でも述べたようにキョウホウを握り締めながら泣いたのだからお金のためではなく愛がなくては、エリスのような行動はとらないだろうと考える。このように、人それぞれ考えはちがうのでこれからもいろんな人の意見を聞いてみたいと考える。